

「群馬県方言辞典」作成の試み

佐藤 高司

キーワード

方言の保存 方言辞典 文法書 談話資料 消滅危機言語

要旨

本稿では、3年計画で出版を目指している「群馬県方言辞典」について、企画の背景、制作方法、1年目の制作過程及び成果を示した。成果とは、4つの文献データを統合した「群馬県方言辞典 ver. 1」の「ア」～「オ」について、試験的に辞書作成を試みたことである。これにより、複数の文献を統合して方言辞典の形とするための手法を確認することができた。完成版の制作手法を確立するという目的はほぼ達成できたといえよう。本稿の公開によって、より求められる出版となるよう広く社会に指導、意見、要望等を求めた。

1 はじめに

本稿は、3年計画で出版を目指している「群馬県方言辞典」の1年目の進展状況を公開し、より求められる出版となるよう、広く社会に指導、意見、要望等を求め、完成版の制作手法の確立を目的とするものである。ここでは、企画の背景、制作方法、1年目の制作過程及び成果を公開する。

2009年に世界の2500の「消滅危機言語」がユネスコから発表され、日本においても8つの言語—アイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語—が認定された。このことが象徴するように、日本各地の伝統的な方言は、今や消滅危機に瀕している。この現状に対し、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」は、これらを記録し、その価値を訴え、継承活動を支援する活動に取り組んでいる。しかし、その研究の対象を日本各地方言に広げるには人的、物理的に難しい状況である。このような状況を鑑み、日本各地の方言研究者は自主的に自らのフィールドの方言の保存活動を開始するべき状況にある。筆者は、群馬県をフィールドとする方言研究者として、貴重な群馬県の文化である群馬県方言を保存するとともに、これからの群馬県方言研究の基礎となる「群馬県方言辞典」を企画している。

2 企画の背景

言語・方言の記録を作成するためには、「辞書」「文法書」「談話資料」の3点セットが必

要であると言われている。現在、群馬県方言には、それを目的として制作されたものではないものの、そのうちの「文法書」「談話資料」に当たるものが存在する。文法書としては古瀬（1997）、談話資料としては群馬県教育委員会（1987）、国立国語研究所（2003）などがある。

しかし、群馬県方言には方言辞典として単著に当たるものが存在しない。ただし、古瀬（1997）には杉村孝夫氏による「方言基礎語彙」や杉本妙子氏による「俚言」、遠藤（2007）には「上州のことば」という形で簡易に辞書的なものとして活用できるものがある。ちなみに、近都県には、栃木県の森下（2010）、長野県の馬瀬（2013）、新潟県の大橋（2003）、埼玉県の手島（1989）、東京都の金畑（2012）、茨城県の赤城（1991）がそれぞれ単著として存在している。単著「群馬県方言辞典」の作成は喫緊の課題であると言えよう。

3 制作方法

辞書作りは、一般においても小説・映画「舟を編む」等で周知のとおり、根気のいる地道で、かつ時間のかかる作業である。「群馬県方言辞典」は、群馬県内に存在する市町村史や方言集をデータ化し統合することで完成を目指す。

制作は 3 年間計画で、1 年目の今年度はパイロット的研究として位置づけている。2018 年度の研究手順の概要は、次の①～⑤のとおりである。

- ①データ化を目指す文献の選択・収集
- ②データのフォーマット作成
- ③試験的なデータ化（入力）
- ④試験的なデータの統合
- ⑤試験的なデータの整理・体裁調整

パイロット的研究である今年度は、どのような手順で進めば方言辞典としての形を成すことができるのかという点に最も重点を置くこととした。市町村史や方言集のデータ化は、ワークスタディの学生とアルバイトによる作業とした。

4 制作過程

群馬県立図書館に協力を要請し、同図書館が所収する市町村史に「方言」の記述があるもののリストアップを依頼した。【表 1】は、同図書館が市町村史のうち市史について「方言」の記述がある文献をリストアップした調査結果である。

試験的なデータ化は、次の 4 資料で試みた。

- ・手元に所収していた古瀬（1997）の「俚言」
- ・町誌みなかみ編纂委員会（1964）
- ・沼田市史編さん委員会（1998）

- ・富岡市市史編さん委員会（1984）

【表 1】群馬県立図書館所収の市史の「方言」の記述

市名	市史タイトル・巻号	ページ	項目名
前橋市	ナシ		
高崎市	ナシ		
桐生市	桐生市史 別巻 (桐生市 1971)	1245-1288	方言
伊勢崎市	ナシ		
太田市	太田市史 通史編 民俗（下巻） (太田市 1985. 3)	844-866	方言・訛語
沼田市	沼田市史 民俗編 (沼田市 1998. 3)	852-868	方言
館林市	館林市誌 歴史篇 (館林市 1969)	1012-1041	館林地方のことば
渋川市	渋川市誌 第4巻 民俗編 (渋川市 1984. 10)	971-996	方言
藤岡市	藤岡市史 民俗編 下巻 (藤岡市 1995. 3)	903-931	方言
富岡市	富岡市史 民俗編 (富岡市 1984. 10)	859-886	方言
安中市	安中市史 第3巻 民俗編 (安中市 1998. 11)	664-774	安中のことば

データのフォーマットは、古瀬（1997）の情報量が最も多いため、それに合わせて「方言形ひらがな」「方言形カタカナ」「漢字かな交じり表記」「品詞」「意味（語釈）」「用例」「ページ」「出典」とした。なお、「方言形」については、ひらがな入力でもカタカナ入力でも、どちらか一方の入力をしておけば、エクセルの機能を使い、瞬時に「方言形ひらがな」と「方言形カタカナ」を作ることができる。

試験的なデータの統合として、上記 4 文献のデータを結合した後、エクセルでソートをかけて 50 音順に並べた。その後、試験的なデータの整理・体裁調整として、方言形、意味（語釈）、用例、出典（略号）のみを記載する形で、「ア」～「オ」の辞書作成を試みた。

5 試験的な辞書作成

試験的に辞書作成を試みた成果（「ア」～「オ」）を以下に示す。

試験的な辞書の見方

- ・見出し（方言形）は、太字カタカナ表記である。
- ・各項目は、「見出し（方言形）」「空白」「意味（語釈）。」「用例。」「当該の意味（語釈）及び用例を所収する文献名（略号）」という要素で成り立っている。他の文献にも所収がある場合には、「／」「意味（語釈）。」「用例。」「当該の意味（語釈）及び用例を所収する文献名（略号）」という要素を繰り返す。ただし、用例がない場合もある。
- ・見出し（方言形）及び意味（語釈）は、出典の記述をできる限り尊重した。
- ・明らかな誤植及び誤解を生じやすいと判断される表記は、筆者の判断で修正した。
- ・出典の略号は次の通りである。

俚 … 古瀬（1997）の「俚言」 水 … 町誌みなかみ編纂委員会（1964）
 沼 … 沼田市史編さん委員会（1998） 富 … 富岡市市史編さん委員会（1984）

ア

アーノケザマ 仰向け。水
 アイツ（ラ） あの人単数（複数）卑称。富
 アイコナ くず米を粉にしたもの。沼
 アオミドロ 川などで青緑になってたまっている所。富
 アカ ①乳児。②心の幼い状態の子。③血うみ。富
 アカゼミ 油蟬。富
 アカツラ 血色のよい人。富
 アカブー 血色のよい人。富
 アカナス トマト。沼
 アガリハテ 上ったところ。富／玄関の土間から上がった所。昔の民家の（農家）の間取りの一つで、土間と座敷の間にある数畳の広さの板の間。ござなどを敷いてある家が多い。（用例）アガリハナデ オチャー ノム。俚
 アガル 蚕が上族する。沼
 アカンゲール 赤蛙。富
 アギト ①下あご。②かかと。富
 アキンドウ 商人。富
 アク 灰。富
 アグ 顎。水
 アクダラ せん。水／センの木。沼
 アクツ かかと。富
 アクテー 憎まれ口。悪口雑言をいうこと。（用例）オヤニ ソンナ アクテー ユー コワ イネー。俚
 アクテー ロぎたなくののしる事。富
 アクト 踵。水／沼
 アグロカク 安座する。富
 アゲイワエ 上族の祝い。沼
 アゲータモンダ いい気味だ。富
 アケガタ 早朝、夜が明ける時。富
 アサクサカリ 朝食前にする仕事。富
 アサゲ 朝食。富

アサヅケ 朝食前にする仕事。富
 アサッテ 明後日。富
 アサツパカ 朝早くから。富
 アサツバラ 朝。沼／朝早くから。富
 アサハン 朝食。富
 アサマオビ 浅間山に冬かかる雲。富
 アサマオロシ 冬季浅間山から吹き降ろす北西風。富
 アサメシ 朝食。富
 アサワザ 朝仕事。富
 アシタ 明日。富
 アシツルン 足長蜂。富
 アシツボ 山の急斜面に足をかける小さな凹み。富
 アジトリ あやとり。沼／あやとり遊び。富
 アシナッカ 足半。沼
 アタイ 私、女性語。富
 アタシ 私。富
 アタマスキ 空頭蚕。富
 アチャッコチャ あっちこっち。富
 アチャマア それでは。沼
 アッケネエ あじきない。水／はかない。沼
 アツラコト 残念なこと、もったいないこと。沼
 アツラモン もったいない物。沼
 アツラモンダ 惜しい。水
 アツコトモネー どうしていいかわからない状態。途方にくれた状態。（用例）クイモシネーニ コンナニ イッペー ツクツテ アツコトモネー。俚
 アテ 頼り。富
 アテコトモネエ 沢山。水
 アテコトモネエ とんでもない。富
 アテコトモネー 比較するものもない程ひどい状態。富
 アテズッポウ あてどなし。水

アテンナンネー 頼りにならない。富
 アトジシャリ 後へ退く。富
 アトシャリ 後へ退く。富
 アトッカジ 後ろの方に荷物を積みすぎて、舵が
 重くて取りにくいこと。逆に前が重くて舵を取
 りにくいことは、メーッカジと言う。俣
 アトッカタ 後ろの方。富
 アトットリ 嗣子。富
 アトトリ 嗣子。富
 アナップサゲ 麦まきの済んだ祝い。沼
 アニイ 下男。水／男の年季奉公人。沼／兄。富
 アニキ 兄。富
 アネエ 姉。富
 アネゴ 姉。富
 アネサン 姉。富
 アバケル あばれる。富
 アバラッポネ 胸骨。富
 アブノソーダチ 一斉に全員座を立つ事。富
 アブラゲズシ いなり寿司。(用例) ムカシハ ア
 ブラゲ ズシツート ゴチソーダッタ。俣
 アマ 女の子の卑称。富
 アマアシ 雨の早さ。富
 アマグモ 雨を降らせる雲。富
 アマツタレ 甘えん坊。富
 アマツチョ 女の子の卑称。富
 アマツチョウ 女子。水
 アメフリバナ ほたるぶくろ。富
 アメンボー 氷柱。富
 アヤ 御手玉。水
 アヤケル あわてる。富
 アライモ サトイモ。沼
 アラカタ 大体、おおかた。富
 アラク 開墾。水／最初の田かき、初代かき。沼
 ／開墾地。富
 アラクオコシ 開墾作業。富／開墾。富
 アラクッコナシマンジュー 大麦の皮で作ったま
 んじゅう。富
 アラッペイ 荒々しい。水
 アラホタス 騒ぎ立てる。富
 アラボン にいぼん。初盆。俣
 アラマシ 大概。水
 アラユ 口あけの湯。富
 アリヤコリヤ あっちこっち。富
 アリンゴ 蟻。富
 アリンド 蟻。富
 アルガン あるから。水
 アレゲー あれ程少しのこと。富
 アレチンペー あれ程少しのこと。富
 アレッチンペー あれしか。富
 アロウズ 豪雨で一時的にできる土砂の流れ。沼
 アロウバチ ジバチ。沼
 アワバナ オミナエシ。沼
 アンキニスル 呑気にする。富
 アンギモネー 無謀な。富
 アンゲー あれしか。富
 アンケラ なすこともなく、ブラブラしている状

態。コンケラとも。富
 アンジャーネエ 大丈夫だ。富／大丈夫だ。心配
 ない。(用例) オジーサン グェーガマダ ワリ
 ーカイ アンジャー ネーヨ。俣
 アンジャアネエ 大丈夫。水／心配ない。沼
 アンタ 二人称単数。富
 アンタガタ 二人称複数。富
 アンチャン 兄。富
 アンドスル 安心する。富
 アンニア 兄。水
 アンネエ 女中。水／女の年季奉公人。沼／姉。
 水
 アンピン 餡入り餅。沼
 アンブク 泡。富
 アンベエ 具合、あんばい。沼
 アンペー 病気の具合。富
 アンメー あるまい。富
 アンモチ 大福餅。富

イ

イ (ユ) クジナシ 臆病者。富
 イイアイ 口論。富
 イイオトコ 美男。富
 イイオンナ 美女。富
 イイカケ 話の途中。富
 イイックラ 口論。富
 イーカラカン でたらめ。富
 イーカン (ペー) でたらめ・いい加減。富
 イーカンソー いい加減。適当。(用例) イーカン
 ソーニ ヤットケバ イー。オメーノ シゴト
 ワ マッタク イーカンソーダ。俣
 イイキ (ナモン) 自分だけで悦に入っている状
 態、気の良い状態。富
 イイシキ 物事がうまくいった状態。富
 イイシコ 盛装。富
 イイツギ 町・村・小字内等のふれ。富
 イイツケ 命令。富
 イイッコイ 言い争い。富
 イーノウ 結納。水
 イエー 共同作業。富
 イエーダ 歩く。富
 イエーベ・イベ 行こう。富
 イエミ 新築の家に祝いに行く事。富
 イカサマ 偽・いいかげんの状態。富
 イカモングイ おかしな物でも食べる人。富
 イガラッパー 煙等でのどえごい。富
 イキシテ 行きがけ。富
 イキセキスル あくせくする。富
 イキッキバツタリ なりゆきに任せる。富
 イキツケ 懇意で時々いつている。富
 イキッケール 蘇生する。富
 イギッコーネー 行くはずがない。富
 イキツメ 行きづまり。富
 イキヌキ 天窓。富

イキレブリ 非常に蒸し蒸しして暑い日に、ばらばらと短時間降る雨。(用例) イキレブリダカラジキニ ヤムヨ。俚
イキレル 非常に蒸し蒸しして暑い。ふつうの蒸し暑さの場合には言わない。(用例) キョーワウント イキレタカラ クサー カルンモヨーイジャナカッタ。俚
イキレル 蒸暑い。水／息が出る、むし暑い、むす。富
イグズラネエ 行くどころでない。富
イグチニ 互い違いに、ちぐはぐに。富
イゲエ 行け。水
イケコンジョーワイリー 心根が悪い。富
イケザマ 居様・状態。富
イケヅウヅウシイ 大へん図太い。富
イゲットウ へそ曲がりの人。沼
イケバル 息む。沼
イケル 土中に埋める。富
イサケエ 争う。水
イサコウ 争う。富
イシゴーロ 石の多い土地。富
イジッパリ 意地を張る人。富
イシマ 石の多い土地。富／小石混じりの畑。富
イジョウ 少しも。水
イスカ 悪賢いこと。また、その人。(用例) アノヒトワ イスカダ。俚
イスカニ 大そう。富
イタ 蒲鉾。板についていることから、このように読んだものと考えられる。俚
イタッペラ 板。沼
イタミダル 四斗檜。富
イチゲン 嫁入り親族訪問、一見。沼
イチパンコ 最初の田の草取り。沼
イチマケ 同族。沼
イチンチジュ 終日。富
イッキニ 一度に、一息に。富
イッケル のせる。(用例) ソンナモン イッケチャ ダメダヨ。俚／水／富／載せる、上げる。沼
イッコク 強情で頑固なこと。意地っ張りなこと。(用例) マーッタク アノヒトワ イッコクダヨ。俚
イッコクモン 強情で頑固な人。意地っ張りな人。俚
イッサンニ 一度に、一息に。富
イッシュクタ なんでもかんでも一緒にすること。富
イッスイキ 一周忌。水
イッセーキ 一周忌。富
イッソ まるきり。富
イッチクダッチク じぐざぐに。富
イッチョーライ 一着しかない特別良い晴れの時の服装。富
イットーサキ 一番はじめ。富
イッパ 沢山。富
イッブーリュ 変人。富

イッポ 一個又は一枚。水
イトコッカワセ いとこ同士の結婚。富
イドコロネ うたた寝。(用例) イドコロネナンカシテルト カゼー ヒク。俚／仮寝。富
イヌイカゼ 北西風。富
イヌバリ 内気。富
イネコロ ネコヤナギ。沼
イノ 犬。水
イビイ 煙い。水
イビル 手荒に人を扱う。沼／いじる・いじめる。富
イブイ 煙い。沼
イブクロ 胃。富
イブセイ 多い。水
イブセエ 危ない。沼
イブセー 甚だしい・うるさい。富
イボル だだをこねる。沼
イマサッキ ほんの少し前。富
イマシガタ ほんの少し前。富
イマツト もっと。もう少し。(用例) エンリヨシネーデ イマツト タベナイ。イマツト アマク シロイ。俚
イマデキ 当世風。富
イメイメシイ 忌々しい。水
イモグシ でんがく。富
イヨ 魚。富
イリカゼ 東風。富
イワシグモ うろこ雲。富
イワネ 岩のそば。富
インゴ (ヤロー) 偏屈な人。富
インゴコキ 偏屈な人。富
インニエ 十分。水
インビカリ 稲妻。沼

ウ

ウエナオシノナエ 田植えの後、田の隅にまとめて植えておく残りの苗。根付かなかった苗の植え直しに使う。俚
ウシネンボウ 牛。沼
ウスラ ぼぼ、約、およそ。沼
ウソッコキ うそをいう人。富
ウチグロエン 内えん。水
ウチバ 少ない。沼
ウチバツキ 内気。水
ウデナ ゆでた葉野菜。ほうれん草や油菜などをゆでたもの。(用例) サッパリト ウデナデモシテ クーカ。俚
ウデマンジュ 小麦粉と膨らし粉を水でこねた皮に、餡を入れて丸めて蒸かした饅頭。以前は農閑期の休日などの特別の日に作った。(用例) ムカシワ ノーヤスミツト ウデマンジュー ツクッテ クッタケド アレガ ウンマカッタイナー。俚
ウナアーロ 打ってこい。水

ウナウ 田畑の土を起こす、耕す。沼
ウヌ (ヲ) あなた単数(複数) 卑称。富
ウマイレ 畑のあぜ道。沼
ウマゴエ 堆肥。ツミゴエとも。富
ウムス 蒸らす。(用例) マダ カマノ フタ ト
 ッチャ ダメダ、ヨク ウムサナクッチャ ウ
 ンマクネー。俣
ウムレル 蒸れる。蒸し終わる。(用例) アーヨク
 ウムレタ。俣
ウメゴ 梅の実。富
ウラ 梢の先。富
ウラトボー 裏口。富
ウリ 胡瓜。富
ウリッパ キボシ。沼／ぎほし。富
ウロ 大木の幹の芯の空洞になった所。富
ウンダラガキ 熟れすぎた柿。沼
ウンテイ 重い。水
ウント 多い。水
ウンマイ ①おいしい。うまい。(用例) ①ヤッパ
 リ シンマイワ。ウンメーナー。②上手だ。う
 まい。(用例) ツクルンワ ヤツガ ウンマイヤ。
 ③具合がいい。都合がいい。(用例) アシタワ ウ
 ンマクネーナー。俣
ウンマケル 入れ物の中身をすべて出す。ぶちま
 ける。(用例) バケツノ ミズー ウンマケタミ
 テーノ オーアメダ。俣

エ

エイ 労働交換。水
エエ 労力の相互提供による助け合い、結い。沼
エーカン でたらめ。富
エーカン(ペー) でたらめ、いい加減。富
エーカンペー でたらめ。富
エーグ 歩く。富
エエシコ 盛装。富
エーッコ 共同作業。富
エーノリ 檜入り・結納。オサメとも。富
エエヒ お灸。沼
エーブ 歩く。水
エーマツリ 祭前夜。水
エジ 弟。水
エテ 猿。水／富
エバル いばる。富
エビズワ えび。富
エブ 歩く。沼
エベ 行こう。富
エベスコウ 恵比寿講。水
エボ いぼ。(用例) デッカーエボガアル。俣
エラガル 偉そうにする。富
エンガ 足踏み式の鋏。沼
エンガ 鋤。富
エンゴ リンパ腺のはれ。沼
エンゴー 意地っ張り。依怙地。(用例) マッタク
 オメーワ エンゴーナ コダ。俣

エンズ 山魚女の幼女。富
エンノシタ 床下。富

オ

オイゴ 甥。富
オウクマ オニヤンマ。沼
オウシンツクツク ホウシゼミ。沼
オオイビスコ 恵比寿講。旧暦の 10 月 20 日ころ
 に行う家庭の祭り。三日三晩、神棚の恵比寿様
 に御馳走を供えてお祝いをする。1 日目の晩はオ
 オタカモリの御飯(丸く山盛りにした御飯)と
 ザク(すまし汁の一種)、2 日の晩は寿司、3 日
 目の晩はうどんを作って供える。俣
オオカ あまり。沼
オーカ あまり。あまりにも。(用例) オーカバカ
 ナ コトペー ユッテルト ヒトニ ワライラ
 イルカラ オーカ ショッパク スルナ。俣
オオカギ 自在鉤。富
オーコース こわす。富
オーゴッタ 大儀だ。水
オーゴト 大変だ。難儀だ。大変で疲れる様子。
 体がきつい。(用例) ネットガアッテ オーゴトダ
 カラ キョーワ ヤスム。俣
オーゴトスル 苦勞する。富
オーシン 地ぎょうの時使うタコのシンをとる人。
 富
オーシンツクツク つくつくぼうし。富
オーチャクヤロー 横着者。富
オオッパラ 大胆の人。富
オオトコジョー 男(成人)。富
オーニユードー 大男、背の高い人。富
オーバスクレー 大食漢。富
オオヒキ ひき蛙。富
オーヒキベッター ひき蛙。富
オーフー 金の使いつぶりやものに対して気前が
 いい様子。気前よく振る舞う様子。(用例) アノ
 ウチノワ オーフーダカラ オフルマイニ ズ
 イブン カネー カケタンペー。俣
オーホネ 脊椎。富
オーマクライ 大食い。(用例) アノヒトワ オー
 マクライダ。俣
オーマクレイ 大食漢。富
オオマクレエ 大食者。水／大食いの人。沼
オーヤマ 大型とんぼ。富
オカケ 涎掛け。(用例) オカケカケル。俣
オカタ 妻。富
オカテ 副食。富
オカマゲエロ ヒキガエル。沼
オカミサン 主婦。富
オガンショ 願掛け。富
オカンダチ タ立。水
オカンダチ 雷または雷雨。沼
オカンボコ おきな草。富
オキッコ 眠りからおきた蚕。富／眠りから覚め

た蚕。富
オキヌケ 朝起床後すぐ。富
オキョーモン 大胆の人。富
オク 遅稲苗。富
オクカジメル 圧迫。水
オクリ 田の字形の農家の間取りの一つで、奥の部屋。玄関から最も遠い、北西に面した部屋。家族の寝室として使われる。俣／奥の部屋。ウタリとも。富
オクレッコ 生長の遅い子供。富／成長のおくれた蚕。富
オクレル 考えや知恵が普通より足りない状態、時勢に追いつかない状態。富
オクンチ 秋祭り。10月上旬から中旬に行う。祭りの日は村によって違う。赤飯を蒸かして村の鎮守に供える。俣
オコージン 妻。富
オコサマ 蚕。沼
オコサマアゲ 上族。休眠に入った蚕を繭を作るための族（まぶし）に移すこと。「ズーアゲ」とも。俣
オコジョウ 意地悪の人・行為。沼
オコス 休んでいたものを活動させる、土を耕す。富
オゴツツオー もの日等に食べる特別仕立ての食べ物。富
オコリババー かまきり。富
オコワ もち米と小豆・印元豆等をふかし赤くした、はれの食べ物。コワメシとも。富
オコンジョ 意地悪。(用例) ソンナ オコンジョ
バー ユッテル ト ダーレモ アスンデクンナクナルカラ。俣
オコンジョー 意地悪。富
オサエガケニナラナイ どうにもならない。沼
オサナオシ 整地。富
オサナブリ 田植え終了の祭り。田植えが済んだ日の晩に、残った苗を家に持ち帰り、神棚に供える行事。今は田植えが終わった後で、何軒か集まって子宴を催す。俣／田植えの済んだ祝い。沼
オサンカラ でま。でまかせを言うこと。(用例) アノヒトワ ヨーク オサンカラ ユッテル。俣
(オ) サンシ 産婦。富
オジイ 祖父。富
オジキナシ 遠慮をしない様子。(用例) オジギナシニイタダクベ。俣
オジコ 伯父。富
オジゴ 伯叔父。水
オシコクル 押す。押して無理やり動かす。(用例) ソンナニ オシコクッタラ オッコチルヨ。俣
オシコミ 強盗。富
オシブチ 押木。富
オシホコ 押木。水
オシメ 注連縄。沼
オジヤ 雑炊。富

オシヤベ よくしゃべる人、口の軽い人。富
オシヤベリ よくしゃべる人、口の軽い人。富
オジャラカス からかう。富
オシヤラク こっけい。富
オシヤリ ①白くなって死んだ蚕。黒くなって死んだものは「ナダレ」という。②蚕の頭部に斑点がなく、白くて目がないように見える。俣／硬化蚕。富
オシヤレ しゃれる人。富
オジヤン おじさん。おじいさん。親族名称としては使わない。(用例) トナリノ オジヤンワ ゲンキカイ。俣
オショサン 僧侶。富
オシル 味噌汁、おつけ、おみつけ。沼
オシレイ 白粉。水
オセイ 副食物。水
オセエベエカム 教えようか。水
オダ 無駄話。富
オタカモリ 神さまに供えるために御飯を丸く整えて小高くしたもの。前橋地方ではオイビスコ(恵比寿講)のときにする。(用例) オタカモリノ ゴハン。俣
オタキアゲ 神迎えをしたおに御飯を炊いて供えること。沼
オタクラ 無駄話。無駄話をして時を過ごすこと。(用例) アノヒトワ シジュー オタクラ アゲテル。俣／意味のないおしゃべり。沼
オヂイ 祖父。水
オチャ 午前の間食。富
オチャラカス はぐらかす。沼／からかう。富
オチョウベイ ①追従。②乳母。水／調子の良いこと、うわべだけ言葉。沼
オッカア 母。水
オッカカル よりかかる。富
オッカク 折る。欠く。(用例) ボー オッカク。テー オッカイタ。俣／折る、くじく。沼
オッカケッコ 追いかけて。 (用例) オッカケッコ シテ アソブ。俣
オッカサン 母(親)。富
オッカジメル いじめる。富
オッカド ヌルデ。沼
オッカネエ 恐ろしい。水
オッキリコミ ゆでないで煮汁に入れるうどんの食べ方。沼／手打ちうどんと野菜を煮付けたもの。ホートーとも。富
オツクベ 正座。富
オツクベエ 正座。沼
オツクエ 大きい。水
オツコクル 押しやる。沼
オッコス 壊す。解体する。(用例) キモン オッコシテ フトンノ ガワニ スル。俣
オツツァレル 叱られる。怒られる。受身形の「オツツァレル」の形で使う。「オツツァル」とは言わない。(用例) ユーバワ オソクマデ テレビミテタンデ オツツァレチャッタ。俣／しかられる。沼

オット 酒。水／富
オットパス 追いかける。走って追い払う。(用例) ノライヌー オットバシテクレ。 俣
オッパナス つないでいたものや捕まえていたものを放す。(用例) イヌー オッパナシチャー ワルサシテ コマル。 俣
オッピロゲル 広げる。(用例) マター オッピロゲテ ギョーギガ ワリー。 カッテキタ モン ノソナニ オッピログネーデ シマツキナ。 俣
オッペケス 押さえつける。沼／押す、押さえる。 富
オッペナス 押さえつける。 富
オッポ 尾。 富
オッポル 放る。放っておく。(用例) サイフーコ ンナトコエ オッポットイテ イーンカイ。 俣
オデシコウ 大師講。 水
オテッコモリ 飯高盛。 水
オテノコブ てのひらに赤飯などを載せること。 沼
オテノコボ てのひら。 富
オテノコボー 皿代わりに手の平にものに乗せて 食べる。おやつや味見などのときにする。(用例) サラナンカ イーヨ、オテノコボーデ モラッテ クーバー。 俣／手のひらにとって 食べる食べ物とその状態。 富
オテンタラ お追従。おべっか。ごますり。(用例) オテンタラバー ユー。 俣／世辞。 沼
オテントウサマ 太陽。 水
オテントーサマ 太陽。 富
オテンマ 共同作業。 富
オトウ 父。 水
オトウカ きつね。 沼
オトーカ 狐。(用例) オトーカニ バカサレル。 俣／富
オトガイ あご。 富
オトコゴケ 妻を亡くした男。 富
オトコシ 男(成人)。オッチャンとも。 富
オドス 叱る。 水／沼
(オ) トッチャン 父(親)。 富
オトトイ 一昨日。 富
オナサレル うなされる。 沼
オニガーラ 容貌の見よくない人。 富
オニグモ 入道雲。 沼
オニゴト 鬼ごっこ。 富
オニバラ おにおこぎ。 水
オニムシ カブト虫。 沼
オネ 山の峰。 富
オバア 祖母。 水／富
オバコ 叔母。 富
オバゴ 伯叔母。 水
オバサンコ ままごと遊び。 富
オバサンチ 便所。 富
オハジキ おはじきで遊ぶ事。 富
オバシン 炊事、お勝手仕事。 沼
オバヤン おばさん。おばあさん。親族名称とし

ては使わない。(用例) オバヤン、オチャノンデ キナイ。 俣
オハヨウガンス 朝の挨拶。 水
オバンシ 炊事をする人。 富
オバンニナリヤンシタ 夜の挨拶。 水
オヒート お手玉・お手玉遊び。 富
オヒカリ 稲光。(用例) オヒカリガ シテルカラ ハイク ウチー ケールバー。 俣
オビシノハダカ 帯を締めない人の様子。 沼
オビナシハダカ 帯なしで着物を着る。 富
オビノハダカ 帯無裸。 水
オヒマチ 前橋辺りで11月3日に行う稲刈りの祭り。昔は太陽が昇る前に餅を搗いて、親類などに配った。今は前日に餅を搗く。また、今は稲刈りの時期が早くなったため、オヒマチの前に稲刈りが済んでいるのがふつう。(用例) オヒマチダカラ モチー ツカナクッチャ。 俣
オヒャラカス からかう。 富
オヒョーラク 面白いことをいう人。 富
オフクロ 母(親)。 富
オブツツアル 負んぶされる。負ぶわれる。(用例) オブツツアッテ ネチャッタヨ。 俣
オフリ せきれい。 水
オベッカツカウ お世辞をいう、へつらう態度をとる。 富
オベンジョマーリ 赤ん坊の祝い事の行事の一つ。生まれて7日目ごろに行う。祖母が近所の家に赤ん坊を連れて行って、額に口紅や墨を付けてもらう行事。 俣
オベンチャラコク お世辞をいう、へつらう態度をとる。 富
オボギ 産衣。 水
オボサン ひざこぞう。 富
オボスナ 有土神。 水／産土神。 富
オボヤキ 赤ん坊の祝いの行事の一つ。出産祝いのお返しをする行事。男の子は生まれて19日目、女子は21日目に行う。 俣
オボヤケ サンゴ二十一日の祝い、産屋明き。 沼
オマンマ 飯。 富
オミキスズ お神酒どっくり。 沼
オミゴク 神社などからいただいて神棚に供えた御供物。また、そのお下がり。(用例) ムカシッカラ オミゴクオ イタダクト カゼ ヒカネーッテ ユッタモンダ。 俣
オムス 蒸らす。ウムスとも。(用例) スコシ オムシタ ホーガ ウンマイ。 俣
オムレル 蒸れる。蒸し終わる。ウムレルとも。(用例) アー ヨク オムレテ ウンマゲダ。 俣
オメー(ラ) あなた単数(複数)卑称。 富
オメーアガリ うぬぼれ。 富
オメエガガヤ お前のかい。 水
オメンメ うどん。 富
オモツツイ 大晦日。 沼
オモリカエ お代わり。(用例) オモリカエ シテ クンナイ。 俣
オヤゲネエ 哀れな。 水

オヤゲネエ かわいそう。沼
オヤジ (サン) 父 (親)。富
オヨゴシ ごまあえ。富
オラッカタ 私のほう、私たちのほう。富
オランザ 私。水
オレ 一人称単数。富
オロヌキ 間引き。水
オンカニ 公然に。沼
オンナシ 女 (成人)。富
オンパク おおばこ。富

オンパコ おおばこ。富
オンベ 縁起。富
オンベカツギ 方角や日の良し悪し、縁起に神経を使う人。(用例) アノヒトワ オンベカツギダ。俚
オンベカツギ 縁起にこだわる人。沼／迷信にこだわる人。富
オンベロ 幣束。沼
オンマルメル まるめこむ。富

6 おわりに

3 年計画で出版を目指している「群馬県方言辞典」について、企画の背景、制作方法、1 年目の制作過程及び成果を示した。4 つの文献データを統合したもの (仮称「群馬県方言辞典 ver. 1」) の「ア」～「オ」について試験的に辞書作成を試み、これを成果として公開した。より求められる出版となるよう広く社会に指導、意見、要望等を求めたい。

4 文献だけとはいえ、「群馬県方言辞典 ver. 1」の作成により、複数の文献を統合して方言辞典の形とするための手法を確認することができた。完成版の制作手法を確立するという本稿の目的はほぼ達成できたといえよう。3 年計画の 2 年目である次年度の作業は、完成版に所収する文献の検索と確定、また、それらのデータ化が中心となる。貴重な群馬県の文化である群馬県方言を保存するとともに、これからの群馬県方言研究の基礎となる「群馬県方言辞典」の完成を目指して、地道に確実に作業を進めていきたい。

文献

- 赤城毅彦 (編) (1991) 『茨城方言民俗語辞典』東京堂出版
 遠藤隆也 (2007) 『上州弁読本』ブレーン・オフィス
 大橋勝男 (編) (2003) 『新潟県方言辞典』おうふう
 金端伸江 (編) (2012) 『東京ことば辞典』明治書院
 群馬県教育委員会 (編) (1987) 『群馬の方言』群馬県教育委員会
 国立国語研究所 (編) (2003) 『全国方言談話データベース日本のふるさとことば集成第 7 巻群馬・新潟』国書刊行会
 古瀬順一 (編) (1997) 『群馬県のことば』明治書院
 町誌みなかみ編纂委員会 (編) (1964) 『町誌みなかみ』町誌みなかみ編纂委員会
 手島良 (編) (1989) 『埼玉県方言辞典』桜楓社
 富岡市市史編さん委員会 (編) (1984) 『富岡市史 民俗編』富岡市
 沼田市市史編さん委員会 (編) (1998) 『沼田市史 民俗編』沼田市
 馬瀬良雄 (編) (2013) 『長野県方言辞典 [特別版]』信濃毎日新聞社
 森下喜一 (2010) 『改訂増補 栃木県方言辞典』随想舎

協力者

群馬県立図書館 補佐（調査相談係長） 関口裕子

群馬県立女子大学 教授 新井小枝子

共愛学園前橋国際大学 教授 小柏伸夫

共愛学園前橋国際大学 学生 新井久美、前原美香

Abstract**Gunma Prefecture Dialect Dictionary****Takashi Sato**

This paper describes the background of the project for a Gunma Prefecture Dialect Dictionary, including the production methods, the first year's work, and the results so far, with the aim of publishing within three years. Here, we describe the result of an experimental trial for the A–O volume of the first version of a Gunma Prefecture Dialect Dictionary. Thus, we were able to confirm our means of integrating multiple documents and creating a dialect dictionary. Additionally, our objective of establishing the production method for the finished version was attained. Through the publication of this paper, we ask readers for guidance and to communicate any opinions or requests they might have to us.